

こんな事をしました！ こんな事がありました

2005年度 里山保全総合講座報告②

7月17日(第3回)里山作りの実践作業スタート

第3回目ともなるとお互いが顔なじみ。梅雨曇りでムシムシする暑さだったが和やかな雰囲気の中でスタート。今回は座学講義は無しで実践作業が中心の講座。全員が汗まみれになって作業に取り組んだ。作業終了後、出された冷たい麦茶が五臓六腑にしみわたる心地の美味だった。

リーダー講座はチェーンソウの扱いを習得

午前中はチェーンソウの扱いについて学んだ。講師は「赤目の里山を育てる会」理事の湯川さん。湯川理事は仕事として山林の伐採などの作業をしている人だけに、実践のノウハウも交えての適切な話。

チェーンソウの手入れ方法の後、特に熱を入れたのが作業の安全確保。「パーンと軽く身体に当たっただけで、



林の中で湯川さんの指導を受けながら実践作業

高速で回転しているチェーン刃で身体の肉がえぐれてしまう」と作業姿勢、取り扱いについては特に気をつけるよう繰り返し説明。また、

作業に当たっては伐採木の倒れる方向や、倒れる時に周囲の木をハネル危険や、作業者の逃げ場の確保など、危険な作業を安全に遂行する方法も懇切丁寧に教授した。

午後は林に入って木を伐る作業実習。参加者4人がそれぞれ1台ずつのチェーンソウを持って倒木の玉切りと立ち枯れ木の切り倒しに挑んだ。チェーンソウの扱いに慣れていない人へは湯川さんが付きっきりで手ほどき。実践を通してチェーンソウの扱いの概略を体験する事ができた。



作業前、湯川さんからチェーンソウの取り扱いの説明を受けた

レディス講座はベンチ作りとササユリ自生地の草刈り

午前中は「間伐材を使ったベンチ作り」で板に加工した間伐材を使ってベンチ作りに挑戦。長い板をベンチの長さに合わせてノコギリで切ったり、ベンチの脚になる木材を斜めに切ったり作業。これまでノコギリやドリルを扱ったことのない人が多く、板が無事切れるとパチパチ、ドリルで木ネジがキチンと留まるとパチパチと拍手。全員がワイワイ、ガヤガヤ言いながら交代で作業。それでも、正午過ぎには2脚のベンチが出来上がり、パチパチパチと全員が拍手で完成を確認し合った。



ササユリの自生地の手入れ。レディス講座らしく賑やかだった

午後はササユリの自生地の草刈り。今年はササユリの1年生の新芽があちら、こちらにいっぱい芽生えていたので、まず、雑草とササユリの違いの見分け方からスタート。作業中、大きなカエルがいたり、アブや蜂が飛んできたり。その度に「キヤーン」と叫声。林の中は無風に近い状態での作業に全員が汗ビショリ。事故も無く午後3時頃に無事終了した。

【文責＝里山保全リーダー受講生・芝田 香象】